

**京都こども文化会館のあり方について
(報告書)**

平成30年9月

京都こども文化会館あり方懇談会



I 趣旨

- 京都こども文化会館は、昭和57年開館以来、青少年が芸術・文化を鑑賞し、創造・発表する場として、また、絵画・書道・合唱の「こども文化教室」などにより、青少年の健全育成に大きな役割を果たしてきた。
- しかしながら、近年は利用者数が低迷し、平成27年度にはピーク時の平成6年度と比較し半減するなど大幅な減となっている。
- 他方、施設開設後35年以上が経過し、施設・設備の老朽化が進展、建物の耐震性も欠いていることから、利用者の安全を確保しながら、施設の利用を継続するためには、大規模改修等に必要な再投資をすることが不可避な状況となっている。
- また、平成27年度に実施された、外部有識者からなる京都府の「府民サービス等改革検討委員会」による府民利用施設あり方検証において、見直すべき施設とされ、営業の強化、利用促進等を図るとともに、施設の利用実態や代替施設の存在、施設の老朽化を踏まえ、設置目的や必要性について改めて整理を行うとともに、引き続き、今後の施設のあり方について京都市と協議を進めることとされた。
- 以上のような利用実態の変化や施設の老朽化等を踏まえ、今後の施設のあり方について、専門的見地等から幅広く意見を求めるため、学識経験者、青少年育成団体、地元関係者等で組織する「京都こども文化会館あり方懇談会」が府市共同で設置された。

II 懇談会での検討の概要

懇談会を3回開催し、この中で現地の確認、利用状況等のデータによる客観的な現状把握、懇談会による施設利用者等アンケート調査の実施、施設活用団体との質疑、委員による意見交換等を実施した。その概要は以下のとおり。

1 施設の現状と課題

懇談会において、府市から説明を受け質疑応答により施設の現状と課題を確認した。

(1) 施設の利用実態

- 利用者数（平成27年度）が平成6年度をピークに半減（直近平成29年度との比較では6割減）
- 利用団体のうち青少年関係団体は、ピーク時から現在まで概ね50～60%台、本来の設置目的である青少年以外の利用割合が概ね40%台
- 地域別では京都市内の団体が概ね80%台

(2) 施設利用低迷の要因分析

- ① 少子化の進展等社会・経済情勢が変化し、全体的に施設の利用自体が減少していること
- ② 競合する類似施設が立地条件に優れた場所等に整備され、利用者が他の類似施設に移行していること
- ③ 施設が老朽化していること

(3) 今後施設を維持していくためには多額の費用負担が課題

施設・設備の劣化が進行、耐震性も欠いているため、今後とも施設を維持していくには耐震改修も含め大規模改修による多額のコスト負担が必要

○建替えに要する費用概算 約21億円(解体を除く)

○大規模修繕に要する費用 約10億円

(4) 近傍類似施設との比較検討結果

近傍類似施設と比較しても相対的に稼働率が低い。交通アクセスの面で、他の施設に比べて不利な状況にある。

<比較対象施設>

府立文化芸術会館、府立府民ホールアルティ、京都テルサ、府立長岡京記念文化会館、京都コンサートホール、ロームシアター京都、京都市5文化会館ホールを比較検討

(5) 京都子ども文化会館以外の子ども・若者に係る京都市内の施設で実施する文化事業の一例について

身近な地域の子ども・青少年に係る施設として、京都市において、児童館や青少年活動センターを地域毎に多数整備し、そこで積極的に文化事業等を実施している。

○児童館(昭和57年度 39館→平成30年度 131館(+92))

80館で、将棋クラブ、習字クラブ、ダンスクラブ、音楽クラブや合奏クラブ等多彩な文化系クラブ活動を実施

○青少年活動センター(平成30年度 7館(平成10年及び13年に、利用対象を拡大))

各館において、地域交流や青少年の活動の発表の場として、音楽発表、ライブ演奏等の文化事業を実施

2 懇談会で実施したアンケート調査結果

以前利用していたが今では利用しなくなった団体等も含めて、京都子ども文化会館を現に利用してきた団体等の声を聞き、その中から利用者数を回復させるヒントや方策がないか検討した。

<アンケート調査結果の概要>

(1) 文化会館の利用状況に関する調査

- ・ 利用団体の約半数が近いという理由で会館を利用
- ・ 調査結果から、この間比較的近傍の団体を中心に利用団体の固定化が進んでいることが伺われる。
- ・ 施設規模については、利用団体により評価が分かれるが、多人数が舞台に上がるバレエや合唱でホールを利用する団体からは総じて高評価

(2) 回答がなかった団体等を対象にした追加調査

- ・ 利用しなくなった理由を尋ねたところ、交通の便や駐車場、ホールの利用規模等の施設面からの理由等があげられた。
- ・ 今後どのような条件が揃えば再び戻る可能性があるのかとの問いに対しては、施設の規模や現利用施設で定着している等の理由により、現在の場所・規模等を前提として施設改修したとしても戻ってきたいとの意見なし。

3 各委員から出された主な意見等

懇談会の中で、各委員から出された意見や質疑応答等について、主なものを以下に記載する。

(1) 利用者数回復の可能性の検討

◆ 学校関係を中心とした新規開拓が図れないか。

- 地元学区に確認したところでは、近傍の新たな利用ニーズはない。
 - ・ 上京区では元学区が17あるが、多くの学区が自分たちの団体が行う催事は、ほとんど学校でやっている。
 - ・ 地元学区に確認したところ、いくつかの学区が統一して催しをする場合は別として、現時点で学区単位での当館の利用は考えていないとのこと。

- 学校を中心とした新規開拓については難しいのではないか。

- ・ 子どもが通っている高校は千人規模で、一度には利用できず小さすぎる。
- ・ 吹奏楽部といったクラブ活動になると、何校かが集まって千人規模となるため、この規模の会館では、選考段階で漏れてしまうほか、施設の魅力の点でもコンサートホールや京都会館の魅力に負けてしまうといった声を聞く。
- ・ 施設の老朽化の問題、トイレが和式中心であるといった点も含めて、学校側もなかなか積極的には利用しづらいといった問題もある。
- ・ 紫野高校の文化祭は、学校のグラウンドでやっていたが、収容人数や施設面、天候面の理由により一昨年度から府立体育館を使うようになった。

府立高校の場合、文化祭はおそらくほとんどの学校では体育館でやっている。

- 小中学校の利用でいうと、中学になると生徒指導上で連れて行くのが難しいとか、移動するのに交通費がかかるので体育館を利用、文化祭の発表でも体育館を利用しているので、授業や文化祭等の発表でこども文化会館を平日の昼間に利用するというのは難しいのではないか。

◆ 施設管理団体による情報発信の工夫も含めたさらなる営業努力、自助努力により、利用促進が図れないか。

- 新聞は情報発信効果が大きいのので、例えば、京都新聞の市民版のまちかど欄に掲載してもらう等、情報発信の工夫により広域的な利用促進が図れないか。
→ 府民だより、市民しんぶんは無料なので発信の媒体として活用している。

・京都新聞には情報提供して、まちかど欄や情報ワイド等に掲載をお願いするとともに、その他の新聞社にも情報発信をしている。

・やれることはやっている。

○ 財団として、営業努力、自助努力がしっかりと果たされているのか。

→ ・利用勧奨の取組みとしては、この間、京都市内の大学への営業活動等、新たな利用者の確保に向けた取組を実施。ただし、希望の曜日が合わないといった理由により、目に見えた効果には至っていないという現状。

・情報発信について、従来、空き状況は電話でのお問い合わせのみ対応していたが、平成28年度から、ホームページ上で空き情報を公開する取組みを進め、利用者の利便性を向上。

・高校生以下で利用する場合は、利用減免や専門スタッフによる利用者支援を実施。

◆ 地元の子どもたちが気軽に利用できるオープンなスペースの確保等があれば喜ぶのではないか。

◆ 今、交通の便を中心とした地元周辺地域の方以外の利用の利便性を上げようと思うと、相当の投資をしないと条件整備ができないということになるのがこの施設の運命的な弱点。

この施設の努力だけでは無理だと思う。交通の便については、いろいろ意見があるだろうが、土地が置かれている条件は変えられない。

(2) 施設の設置趣旨からの検討

◆ 今のこども文化会館が、青少年が芸術文化に触れる機会の確保という設置目的を十分に果たしているといえるのか。実際には、年齢関係なく利用することが可能であることから、この趣旨が明確に果たされているのかということを考えていかなければいけない。

→ 本来この施設の設置趣旨・目的がどのように今達成されているのか、現状の使い方として青少年関係団体の利用が半分くらいになり普通のホールと変わらない状況になっている中で、これをお金をかけて存続していくのか考えていかなければいけない。

◆ こども文化会館は、私にとっては非常に愛着がある場所だが、今は児童館もあり、今の子どもたちにとって愛着のあるものなのかということを見ると、愛着のあった世代から変わりつつあるように思う。寂しさはあるが、そういう時代の流れというのも考えたほうがよい。今かかっている年間経費を上手に今の文化的な事業に使っていくような形というのを今後考えていただければよい。

◆ この文化会館を仮になくすとしても継続するとしても、子どもたちの文化活動は決して後退させないということは考えてほしい。

◆ こども文化会館が果たしてきた機能とか役割を考えると、そもそも子どもたちを中心とした文化というものを府や市がどう考えるのかということが重要。

(3) 府民利用施設という性格（広域性）からの検討

- ◆ 京都府青少年育成協会等による府下を対象としたイベント利用が図れないか。
「少年の主張大会」でこれまで利用していたが、2年前から佛教大学二条キャンパスに変更。600人規模は大きすぎることで、府下全域から集まるには交通の便が悪いこと、親御さんの送迎に当たって必要となる駐車場がないといったことが主な理由。
- ◆ 京都府の施設ということを考えると、京都府がある特定の地域の人たちだけのための施設を維持管理するというのが、果たして府民全体に対して説明のつく話なのかということも出てくる。現状をまずしっかりと把握し、それに対して土地という点では京都市民が、施設という点では京都府民全体が納得できるような方向性を考えないといけない。
そういう意味では、府の施設としては余りにも地域的過ぎる、府が今後も維持しますというのは無理があるのであれば、京都市がそれを引き受けるという選択肢も考え方としては成り立ち得る。
- ◆ 利用の地域別の数字については私としては満足している。当時の人に聞いてもらわないとわからないが、京都府も遠くから利用してくれないと困るというような思いで作ったのではないのでは。上京の人間としては、子どものための大事な施設であり、何とか存続してほしいとは思いますが、その理由が京都府民に言えるほど力を持っていないのが残念。
→ 市の施設としては確かにいい数字だと思うが、府の施設としてこれでよいのか。
・最初に建設したときの関係者・担当者がどういう思いであったかはわからないが、府の施設であるということを一一般論あるいは客観的に言えば、本来は府内全域にサービスを提供するという趣旨だろうと思う。ほかに良い土地がなかったということ等で、結果的に地元中心の利用にならざるを得なかったということではないか。

(4) その他

- ◆ こども文化会館の存在意義について、地域にも、利用者にも、行政にも最も受け入れられる共通項を探り、その上で、それに沿って施設を改修等していくことについても検討すべき。
→ このこども文化会館の懇談会での議論は、今のこども文化会館をどうするかということなので、ホールとは違うものに建て替えるとなると、京都こども文化会館としては廃止ということになる。
- ◆ うちの子どもが使っていて思い出があるとか、子どもが遊びに行っていて楽しんでるからなくさないでくれとか、次世代を担うものを育成するためには是非こういうものを大事にするべきだという感性的な話からすると、建て替えという考えもあるかもしれないが、今の調査結果を見ると、このままの延長線上で考えても、近隣の人に偏重するような利用になっているところに、府民の多額のお金を使うということに対して賛同を得られるような答えは出せないのではないか。

次の第2ステージの会議で、できるだけ広い視野で、もう少し自由に、範囲を広げて考えてみたらどうか。もっといろんな提案が出されて、新しい姿が見えてくるというところにつながってほしい。

- ◆ 建て替えるにしても現在位置の建替えではなく、もっと交通の便がよく、利用者が多いだろうと思うところに建てる努力をするべきというようなことも意見としてはありうる。

ただし、現に利用されている団体にすると、今の場所がいいというのが当然あり、その当たりも当然考慮しないといけない要素。

- ◆ 文化芸術会館の老朽化問題に関連して、京都府の総合資料館の在り方検討会で、総合資料館跡に舞台芸術施設を作る案も案の一つとしてあがっており、同じ文化施設として、この検討の動向を注視すべき。

III まとめ

利用状況等のデータ、アンケート調査結果、懇談会での委員意見等を踏まえ、懇談会として、次のように意見をとりまとめたので、これを踏まえて、今後、府市で京都こども文化会館のあり方について検討されたい。

(1) 京都こども文化会館の果たしてきた役割の評価について

開館以来、地域に愛されてきた施設であり、青少年が芸術・文化を鑑賞し、創造・発表する場として、また、絵画・書道・合唱などの「こども文化教室」などにより、青少年の健全育成に大きな役割を果たしてきたことについては異論のないところ。

(2) 現在地で、施設建替や大規模改修を行い施設を継続することについて

次に、京都こども文化会館は、施設利用者が大幅に減少する中で、施設開設後35年以上経過し、施設・設備の老朽化が進展、建物の耐震性能も欠いていることから、利用者の安全を確保しながら、施設の利用を継続するためには、大規模改修等に必要な再投資をすることが不可避な状況にある。このため、現在地で、施設建替や大規模改修を行い施設を継続することに多くの府民・市民の理解が得られるかについて多面的に検討した。

- ① 利用状況等のデータによる客観的な分析から、次のことが明らかとなった。
 - ・ 平成27年度の施設利用者数はピーク時に比べて半減（直近平成29年度との比較では6割減）と、大幅に減少している。
 - ・ その要因分析としては、少子化の進展等社会経済情勢が変化する一方で、競合する類似施設が立地条件に優れた場所等に多数整備されてきたことが、施設利用低迷の大きな要因の一つとなっている。
 - ・ 利用者数の減少とともに、利用者が施設の近傍を中心に固定化しており、このため、委員から、特定の地域のために府の施設を維持管理していくことが果たして適当なのか、広域的な利用が望めない施設を府市で運営していくことが適当なのかといった課題が指摘された。

- ② 利用回復のヒントがないか探るため本懇談会において実施した利用者等アンケート調査の結果では、次のことが明らかとなった。
- ・ 利用者の約半数が「近い」という理由で利用していること。
 - ・ 逆に利用しなくなった理由として、交通の便や駐車場、ホールの利用規模等の施設面からの理由等があげられた。
 - ・ 施設の規模や現利用施設で定着している等の理由により現在の場所・規模等を前提として施設改修したとしても戻ってきたいとの意見なし。
- ③ 自助努力・経営努力による利用者回復の可能性がないか探るため実施した施設活用団体等への質疑応答の結果、施設活用団体として、広報等今できる経営努力は行っているものの、施設の規模等の面から、経営努力による新規開拓や利用者回復は大変厳しい状況と考えられる。

以上の検討結果を踏まえると、懇談会としては、残念ながら、「現在地で、今後、多額の税金をかけて大規模改修や施設建替を行うことに多くの府民・市民の理解を得るのは難しいのではないか」と言わざるを得ない。したがって、仮に施設を存続させる場合には、多額の費用を支出することに対して府民・市民を納得させる説明責任が生じる。少なくとも、本懇談会が検討した諸点について、将来の見通しや具体的な解決策が示されなければならないだろう。

- (3) 現に施設を利用している団体等もあり、特に、懇談会において実施したアンケート調査結果でも、多人数が舞台上がるバレエや合唱でホールを利用する団体からは総じて高評価を得ていることから、仮に、施設を継続しないとする場合の留意点についても付言する。

施設の設置趣旨は、子どもたちの芸術創造・発表の場等であるが、実際には、年齢関係なく利用することが可能であり、一般の利用もピーク時から現在まで4割程度という利用実態があるため、一般の施設利用者への配慮も必要。

会館開設当初と比較すると、この間、より利便性の高い場所に、府市の文化会館やロームシアター等、子どもたちも含めた文化芸術等の発表や鑑賞を行う文化施設が新たに多数整備されてきたという実態があるとともに、府市の文化会館は、利用料金等の面から、京都こども文化会館と大きな差異はない。

また、より身近な地域の子どもたちに係る施設として、京都市において、児童館や青少年活動センターが地域毎に多数整備され、そこで積極的に文化事業等が実施されている実態がある。

以上のことを踏まえ、懇談会としては、「仮に施設を存続しないとする場合は、現在の施設利用者に配慮しつつ、この間、充実されてきた既存の社会資源を最大限活用し、引き続き、子どもたちの文化・芸術の振興に努めることを望む。」との意見を特に付け加えておきたい。

Ⅳ 委員名簿及び懇談会の開催状況

(1) 委員名簿（50音順）

勝間喜一郎 京都府青少年協会会長
上林 研二 上京区社会福祉協議会会長
日下部 潔 京都市PTA協議会副会長
橘 敦子 公募委員
前野 芳子 公認会計士
真山 達志 同志社大学政策学部教授
吉澤 健吉 京都産業大学文化学部教授

(注) 肩書きは、委員就任時のもの

(2) 懇談会の開催状況

第1回懇談会（平成29年1月23日）
第2回懇談会（平成29年3月27日）
第3回懇談会（平成30年8月30日）

参 考 資 料

○京都こども文化会館の現状と課題について（第1回 資料）	1
○京都こども文化会館の現状について（第2回 資料1）	10
○京都こども文化会館と近傍の類似施設との比較（第2回 資料2）	12
○京都こども文化会館の利用状況等に関する調査について（第2回 資料3）	14
○施設の改修等に要する経費（第2回 資料4）	21
○京都こども文化会館利用ニーズ調査（第3回 資料1）	22
○主な利用団体の所在地について（第3回 資料2）	23
○京都こども文化会館以外の子ども・若者に係る京都市内の施設で実施する文化事業の一例について（第3回 参考資料）	24



京都こども文化会館の現状と課題について

第1章 検討の経緯

- ・ 京都こども文化会館は、昭和57年7月に京都府と京都市の協調施設第1号として開設以降、青少年が優れた芸術・文化に接する機会と青少年自らが芸術・文化を創造し発表できる場として、青少年をはじめ多くの方々に利用いただき、青少年の健全育成に大きな役割を果たしてきた。
- ・ しかし、開設から34年が経過し、施設の老朽化が進むとともに、児童・生徒数の減少や近隣地域での類似施設の増加等により施設の利用が低迷するなど、京都こども文化会館を取り巻く状況は大きく変化している。
- ・ 平成27年6月には府民利用施設のあり方について検討を行う、京都府の「府民サービス等改革検討委員会」から、利用者数、稼働率の改善に向けた取組を行うとともに、施設の利用実態や代替施設の存在、施設の老朽化を踏まえ、設置目的や必要性について改めて整理した上で、今後の施設のあり方について、府市で協議を行うよう指摘されたところである。
- ・ こうしたことから、京都府と京都市において施設の現状分析や利用者数増加策の検討を行ってきたところであるが、施設のあり方についてより踏み込んで検討、議論を深めていくため、学識経験者や青少年団体、地元関係者等から幅広く意見を聞く場を設置することとした。

第2章 京都こども文化会館の概要

(1) 開設

- ・ 昭和54年の国際児童年を記念し、子どもたちの芸術・文化の創造活動を奨励・育成し、すぐれた芸術・文化の公開、普及を図り、もって子どもたちの豊かな文化の振興とともに健全な育成に寄与することを目的として、府市協調事業として「京都こども文化会館」を整備することとなったもの
- ・ 京都市が土地を提供、京都府が施設を建設することとなり、昭和56年着工、昭和57年7月15日竣工

(2) 施設の概要

ア 所在地	京都市上京区一条通七本松西入瀧ヶ鼻町431-1		
イ 構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上3階（一部地下1階）建		
ウ 建設費	1,320,430千円		
エ 主要施設	大ホール	916㎡ (608人収容可能)	資料室 68㎡
	ホワイエ	679㎡	楽屋 147㎡ 5室
	小ホール	160㎡ (100人収容可能)	からくり人形時計塔
	創造活動室	152㎡ 2室(各30人収容可能)	

○ 土地の現況（所有者：京都市）

所在地 ・地目 ・地籍	京都市上京区一条通七本松西入瀧ヶ鼻町431-1		雑種地	3,616.87㎡
	京都市上京区今小路通七本松西入末之口町998-3及び998-30		宅地	518.99㎡
	合計4,135.86㎡			
用途 地域等	一条通から 北へ30メートル	商業地域 準防火地域、旧市街地美観地区		
	上記以北	準工業地域 準防火地域、旧市街地美観地区		

○建物の現況（所有者：京都府）

①本館

構造	鉄骨鉄筋コンクリート		
床面積	地下： 344.138㎡	2階： 530.406㎡	屋階： 48.108㎡
	1階：2,369.074㎡	3階：1,074.474㎡	合計4,366.20㎡
耐震性能	耐震性能なし		

②時計塔

構造	鉄筋コンクリート2階建	
面積	建築面積：76.30㎡	延床面積：85.88㎡

③車庫兼倉庫

構造	鉄骨造2階建	
床面積	建築面積：68.46㎡	延床面積：116.63㎡

④自転車置場

構造	軽量鉄骨造平屋建	
床面積	建築面積：31.35㎡	延床面積：31.35㎡

(3) 事業の内容

- ア 子どもたちに芸術・文化活動の舞台を提供する貸館事業
- イ コンサート、映画鑑賞会等府市との共催事業（エンゼル音楽会、エンゼル名作劇場他）
- ウ 子どもたちを芸術・文化に導く事業（エンゼルこども文化教室（絵画・書道・合唱））

(4) 施設の運営

ア 施設活用団体の選定

- ・設立当初から「一般財団法人京都こども文化会館」（※平成25年12月、一般財団法人に移行）が管理運営、建物は京都府が無償貸付
- ・平成22年6月からは指定管理者制度に準じ、3年毎に運営団体を公募し、選定審査会の選考を経て施設活用団体を選定しているが、これまで一貫して同財団を施設活用団体に選定。なお、現在の貸付期間は、平成28年6月19日から平成31年6月18日まで。

イ 施設運営費の財源

- ・京都府、京都市からの補助金(1/2づつ負担)及び利用料収入が主な財源

ウ 利用料金設定

- ・設立趣旨を踏まえ、類似施設よりも低廉な料金体系を京都府、京都市が協議して設定
- ・施設活用団体方式に移行後は、公募団体からの提案により決定されているが、平成4年度以降は、料金改定は行われていない。

エ 施設活用団体の業務内容

- ・施設の運営に関する業務（利用承認、利用料金收受、利用者の増加・サービス向上のための業務）
- ・施設及び設備の維持管理に関する業務 等

オ 役員及び事務局職員体制

- ・役員等 理事長1名、理事3名、評議員4名、監事2名
- ・事務局 事務局長、常勤職員1名、嘱託職員3名

①利用料金

(単位:円)

区分		午前	午後	夜間	午前・午後	午後・夜間	全日
		9時～12時	13時～17時	18時～21時	9時～17時	13時～21時	9時～21時
大ホール	平日	16,000	24,000	32,000	36,000	51,000	65,000
	土・日・祝	21,000	31,000	42,000	46,000	65,000	84,000
小ホール	平日	4,500	5,000	5,000	8,500	9,000	13,500
	土・日・祝	5,000	5,500	5,500	9,500	10,000	15,000
創造活動室(第1・第2)		2,300	3,000	3,000	4,700	5,300	7,400

②収支状況

(単位:千円)

	H6	H23	H24	H25	H26	H27
収入合計	155,118	101,136	111,026	102,587	98,110	97,816
利用料金	33,276	26,203	25,053	24,877	22,601	25,024
その他	15,642	5,758	4,387	4,525	3,655	3,372
府・市補助金	106,200	69,175	81,586	73,185	71,854	69,420
運営補助金	106,200	58,370	58,270	53,168	55,488	55,488
施設整備補助金	0	10,805	23,316	20,017	16,366	13,932
支出合計	155,091	100,852	112,327	103,440	98,303	93,496
人件費	59,345	33,418	33,085	28,614	24,988	21,657
物件費	95,746	67,434	79,242	74,826	73,315	71,839
収支差額	27	284	△1,301	△853	△193	4,320

第3章 施設運営の状況

(1) 施設の利用状況

- ・ 平成27年度の施設の利用状況は、ピーク時(平成6年度)と比較すると、利用者数は大ホールで54.8%減、全体で52.0%減、利用団体数も大ホールで41.5%減、全体で31.6%減と大きく減少
- ・ 団体別では、楽団は50.0%減、劇団は75.0%減、その他催事は63.3%減となっている。しかし、バレエの利用は283.3%増で約3倍となっており、その他の催事が大きく減少する中で特徴的となっている。
- ・ 学校関係では、大ホールの利用は45.3%減。中でも大学利用が80%減と大きく減少しており、この間各大学のホール等の施設整備が進んだことが影響
- ・ また、利用団体のうち青少年関係団体は、ピーク時から現在まで概ね50～60%にとどまり、本来の設置目的である青少年以外の利用割合が概ね40%台を占めている。さらに、地域別では京都市内の団体が概ね80%台と、ほとんどの利用者が京都市内となっている。

① 利用状況の推移

		H6	H25	H26	H27	ピーク比増減
利用者 (上段:人) (下段:使用率)	大ホール	147,355	63,060	58,830	66,600	▲54.8%
		77%	56%	50%	56%	▲27.3%
	小ホール	29,140	17,935	16,030	15,180	▲47.9%
		93%	76%	73%	77%	▲17.3%
	創造活動室	21,832	15,695	14,635	13,385	▲38.7%
79%		73%	75%	71%	▲10.1%	
計	198,327	96,690	89,495	95,165	▲52.0%	
利用団体数 (団体数)	大ホール	123	77	66	72	▲41.5%
	小ホール	96	81	71	64	▲33.3%
	創造活動室	82	81	70	70	▲14.6%
	計	301	239	207	206	▲31.6%

② 団体別利用状況(大ホール)

利用団体	H6	H25	H26	H27	ピーク比増減
バレエ	6	15	11	17	283.3%
楽団	26	16	13	13	▲50.0%
劇団	8	2	2	2	▲75.0%
学校関係	53	33	31	29	▲45.3%
大学	10	4	2	2	▲80.0%
中学・高校	32	21	21	18	▲56.3%
小学校・幼稚園・保育園	11	8	8	9	▲18.2%
その他	30	11	9	11	▲63.3%
計	123	77	66	72	▲41.5%

③ 利用団体の状況

	H6	H25	H26	H27
青少年団体等	60%	55%	58%	57%
京都市内の団体	79%	83%	84%	85%

(2) 施設・設備の状況

ア 耐震性能

- ・ 建築基準法に基づく現行の耐震基準は昭和56年6月1日に導入。本施設の竣工は昭和57年度であるが、設計は法改正前の昭和55年度であるため、旧耐震基準に基づき設計

イ 耐震診断結果

- ・ Is値 最小0.301 最大2.63
- ・ 主なフロア別診断結果
 ピロティ、ロビー、小ホール : 最小Is値 0.301
 大ホール(客席及び舞台) : 最小Is値 0.55
 楽屋・機械室 : 最小Is値 0.47

(参考) 耐震改修促進法に基づき定められた構造耐震指標 (Is 値)

Is 値 0.6 以上	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い
Is 値 0.3 以上 0.6 未満	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある
Is 値 0.3 未満	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い

ウ 修繕の状況

- 平成7年度以降、老朽化による故障等により、音響設備、空調設備、舞台床、照明設備等の各種設備や施設の一部を順次修繕・更新。修繕費の累計額は458,357千円(年平均22,918千円)
なお、給排水設備、屋上キュービクル(受変電設備)は開設以来更新していない。

主な修繕状況

(単位:千円)

年度	内容	金額	年度	内容	金額
7	音響設備更新	31,840	17	調光卓更新	33,600
8	大ホール舞台床改修	35,000	18	調光基盤改修、屋上防水改修等	54,894
9	空調設備改修等	91,000	19	つり天井耐震改修	12,427
10	舞台機構改修等	25,800	20	照明設備改修(負荷回路)	22,523
11		0	21	照明設備改修(負荷回路)、館内地デジ対応工事	26,871
12	音響設備更新	72,660	22	地デジ共聴施設設置、地デジ受信調査、照明設備改修	11,098
13		0	23	アナログ放送施設撤去、音響調整卓購入、災害復旧	10,805
14	ピアノ修理	2,477	24	音響設備改修、自動扉改修	6,804
15	避難誘導灯修理	798	25	空調設備改修(冷温水器分解整備)	5,534
16	照明設備改修(落下防止)	4,095	26	空調設備改修(ホワイエ、小ホール空気調和機更新)	10,131

合計 458,357

エ 劣化の状況

- 京都府では、保有する公共施設について、京都府公共施設等総合管理計画を策定することとしているが、計画を作成するにあたり施設の劣化状況について調査を行ったところ、電気、給排水設備は機能喪失している、空調設備は劣化が進んでいる、その他もほとんど劣化が始まっている状況となった。

劣化状況

機能上問題なし	昇降機 ※
劣化が始まっている	屋根
	外壁
	内部
劣化が進んでいる	空調
機能喪失している	電気
	給排水衛生

※ 建築基準法施行規則等の一部改正(平成21年9月)による「戸開走行保護装置の設置」、「昇降路内及びピット内の耐震対策」は既存不適格

(3) 施設活用団体の取組

ア 自主企画事業等の実施

- ・ 子どもたちに優れた芸術・文化に接する機会を提供するため、「エンゼルたのしい音楽会(こどもの日コンサート)」「エンゼル名作劇場(映画鑑賞会)」「エンゼル音楽会ジョイントコンサート」「エンゼルファミリー音楽会」の4事業を、京都府、京都市との共催事業として実施。
- ・ 幼児から小・中学生を対象に絵画・書道・合唱を指導する「エンゼルこども文化教室」を実施
- ・ 新規の事業としては平成27年度から、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が気軽に楽しめるボードゲーム「京カロム大会(教室)」を実施。平成28年度は、子どもたちが高齢者やボランティアと交流する取組として、「おもちゃの病院(壊れたおもちゃの無料修繕)」を実施

イ 利用拡大、経費節減の取組

- ・ 京都市内の大学や高校等を訪問して利用勧奨を行うとともに、ホームページ上で施設の空き状況が検索ができるよう利便性を向上
- ・ 平成25年度に常勤役員1名を非常勤化し次年度以降欠員、平成26年度に嘱託職員1名を任期満了後に後任を不補充、平成27年度に常勤職員1名の退職後、嘱託職員とし人件費を削減

第4章 施設運営の課題

(1) 施設利用の低迷

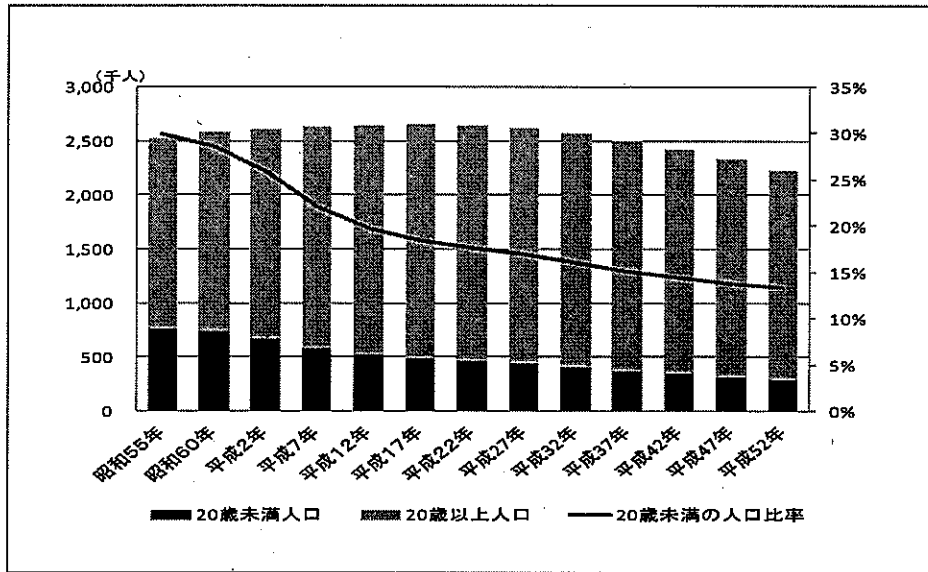
ア 社会・経済情勢の変化

- ・ 経済状況の悪化等により、経費節減のため行催事の見直しや削減を行う団体が増加
- ・ 学校では校内施設の整備が進み、経費節減や保護者の負担軽減等のため外部施設を活用した学校行事の減少
- ・ 授業の一環として実施されていた演劇等の団体鑑賞の減少
- ・ 少子化の進行により子ども向けの催しが減少、将来的な人口推計も減少の見込み

イ 競合施設の増加

- ・ 京都こども文化会館開館当初、京都市内の類似施設は6施設、府内全体では16施設であったが、現在は市内20施設、府内全体では45施設に増加
- ・ 競合施設には交通アクセスがよい、喫茶や食事処がある、大規模駐車場がある等利便性の良い施設も多く、施設選択の際に影響
- ・ 子ども向けの有料公演は、かなりの集客を見込めないと採算が合わないため、交通アクセスが良く収容人数の多い競合施設に移行する傾向(京都テルサ、長岡京記念文化会館等)
- ・ 小ホールを主会場にしていた演劇団体の大半が競合施設に移行(京都芸術センター)
- ・ 大規模から小規模まで様々な規模の施設が整備され、ニーズに応じた施設を選択できるようになった(客席数が少ないとして大規模施設へ移行、逆に多すぎるとして小規模施設へ移行した例あり)
- ・ 大学の独自施設の整備が進み、利用が大きく減少(市内大学が保有する講堂・ホール30施設以上)
また、近隣大学の意向把握の結果、今後新たな施設利活用に関するニーズはなかった

①府内 20 歳未満人口の推移



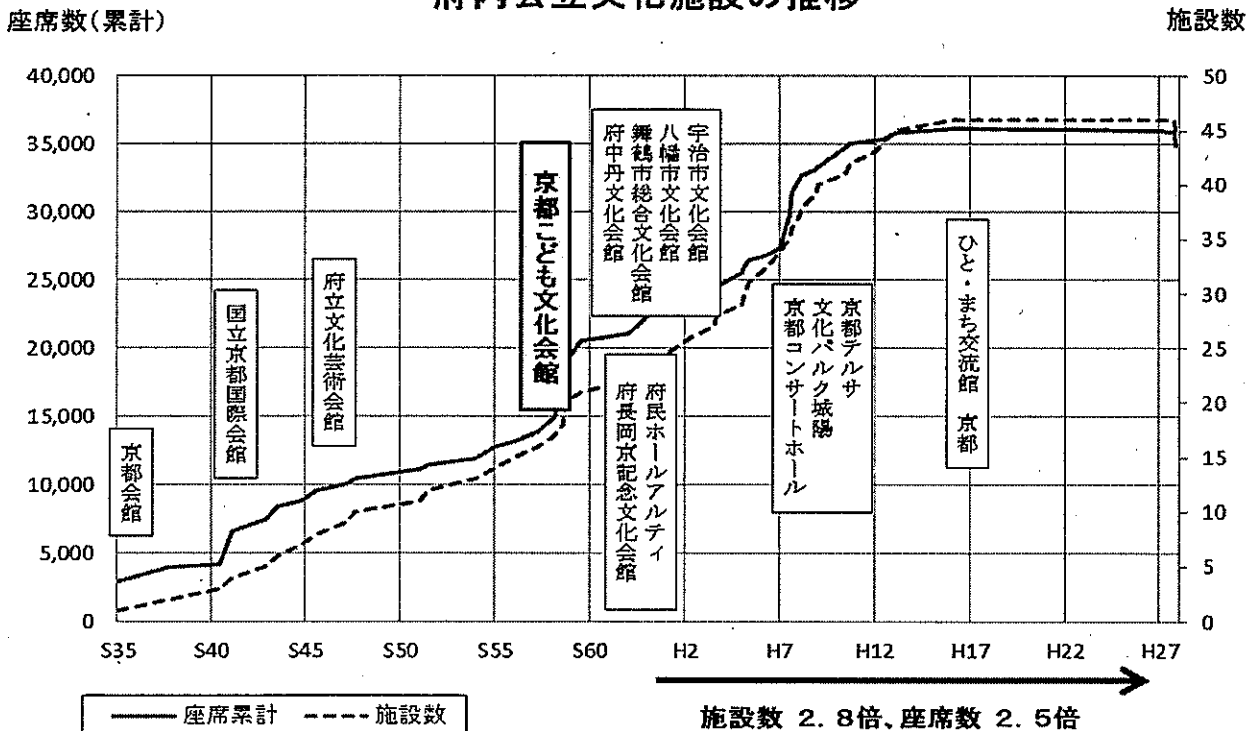
確定人口出典: 国勢調査(総務省)
推計人口出典: 日本の地域別将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)

② 府内公立文化施設の推計

		S35	S57 (会館設置)	H27
府全体	施設数	1	16	45
	座席数	約 3,000	約 14,000	約 35,000
京都市内	施設数	1	6	20
	座席数	約 3,000	約 7,000	約 15,000

※この他、市内の大学が保有する講堂・ホール 30 施設以上

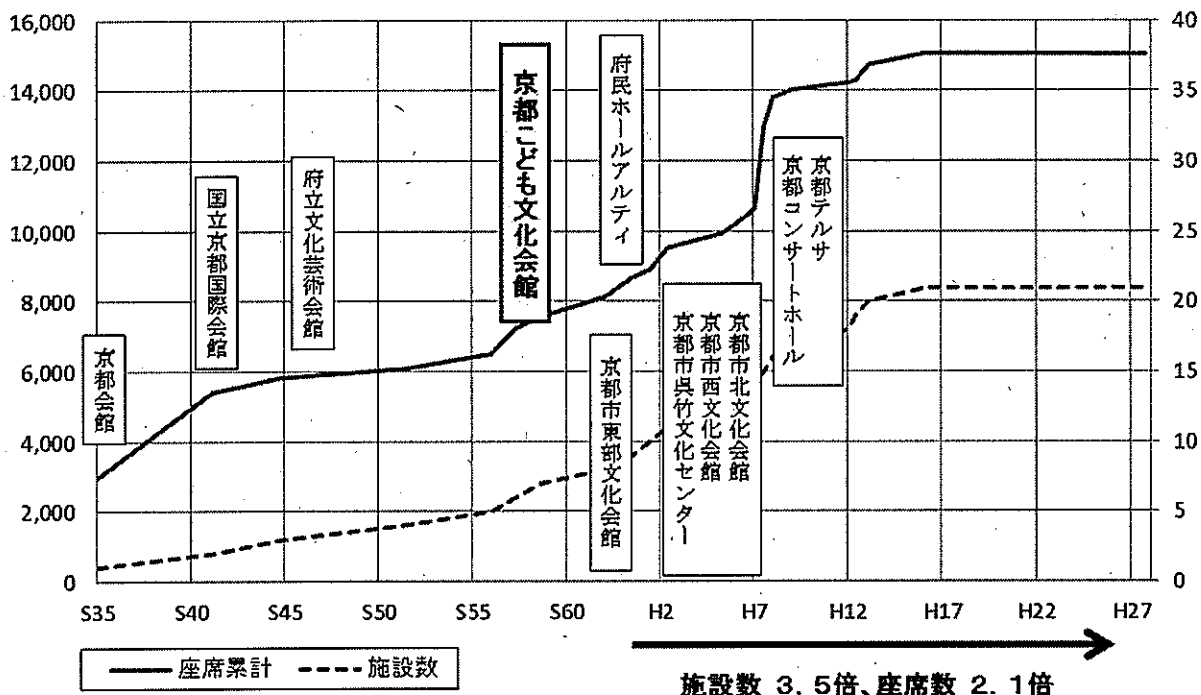
府内公立文化施設の推移



京都市内公立文化施設の推移

座席数(累計)

施設数



(2) 施設の老朽化

ア 今後の施設維持に必要なハード整備

- ・建設後 34 年が経過し施設の老朽化(雨漏り、空調設備の劣化等)が著しく、すぐにも大規模な改修が必要
 ※府立文化芸術会館(昭和 45 年建設)は、築 30 年で大規模改修実施

(内容) 建物本体：屋根、屋上、外壁、内壁・天井・床、ホール 等

各種設備：電機、衛生、空調、昇降機 等

耐震対応：耐震補強設計、耐震補強

計 約 7.8 億円

①改修経費

(単位：千円)

	要改修設備		要改修設備	
		所要額		所要額
早急に改修が必要なもの	大ホール空気調和機更新	13,400	屋上キュービクル	24,700
	屋上防水更新	14,500	非常用蓄電池改修	9,400
	ピアノオーバーホール(2台)	3,700	時計オーバーホール	7,400
	小計		73,100	
近々改修が必要なもの	大ホール冷温水器更新	51,100	大ホール照明設備	21,200
	大ホール吊りもの・反響板	10,800	大ホール音響調整卓	26,700
	大ホール音響設備 (前回改修 H12 年度)	80,000	小ホール照明設備 改修	37,800
	小計		227,600	
合計		300,700		

②上記以外の改修費用 ※類似例として府立文化芸術会館改修に要した経費 (単位：千円)

工事項目	所要額	工事項目	所要額	工事項目	所要額
建築主体工事	231,092	電気設備工事	82,540	衛生設備工事	71,280
空調設備工事	35,400	昇降機整備工事	15,120		
合計				435,432	

③改修調査費 (単位：千円)

改修調査費	所要額
建物調査診断	41,524

・この他に耐震壁の新設や天井の水平ブレースの補強など耐震改修工事費が別途必要

(3) 財政負担の増加等

ア 今後の京都府・京都市の負担見込額 (概算)

(単位：千円)

	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	合計
施設整備費補助金	0	41,000	740,000	不要	不要	不要	不要	23,000	804,000
運営費補助金	56,000	56,000	一時閉	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	392,000
計	56,000	97,000	740,000	56,000	56,000	56,000	56,000	79,000	1,196,000

※ 平成 29 年度に改修調査を実施し、平成 30 年度以降に施設維持のための必要なハード整備及び大規模改修を実施すると仮定した場合

イ 利用低迷による財団運営の赤字化

- ・平成 27 年度の収入は、ピーク時 (平成 6 年度) と比較すると、利用料収入が 24.8%減、京都府・京都市からの補助金が 34.6%減。また、自主事業収入が 77%減と大きく減少
- ・平成 24 年度から単年度赤字。平成 27 年度は利用料収入の増収や、人件費の削減、経常経費の削減により 3 年ぶりに黒字化
- ・経費削減は限界にきていることから、今後も利用率の低迷が続けば赤字になる可能性がある。

(4) 府民サービス等改革検討委員会による府民利用施設のあり方検証

- ・京都府では、府民満足最大化・京都力結集プランに基づき、外部有識者からなる「府民サービス等改革検討委員会」において、公共性、有効性、効率性、代替性の観点から、府民利用施設のあり方について検証を行なっている。京都こども文化会館も検証の対象となっており、平成 27 年度の検証の結果、見直すべき施設とされた。
- ・府民サービス等改革検討委員会からの提言
 - ①利用者数・稼働率の改善には、平日利用の促進が重要であるが、営業活動や利用者ニーズの分析などが十分とは言えないため、近年、増加傾向にあるバレイ利用について営業強化するとともに、積極的な大学等への利用促進やマーケティング分析によるニーズの掘起しが必要
 - ②施設の利用実態や代替施設の存在及び施設の老朽化を踏まえ、設置目的や必要性について改めて整理を行うとともに、引き続き、今後の施設のあり方について京都市と協議を進めること。

京都こども文化会館の現状について

1. 運営財団について

(1) 管理運営期間

昭和57年～現在

※ 平成19年以降は、3年ごとに、京都府指定管理者等選定審査会により選定され運営
(現運営期間：平成28年6月～平成31年6月)

(2) 効果的・効率的な管理運営に向けた取組

ア 子ども・青少年の優先利用

○ 利用調整

大ホール及び小ホールの本番利用は、1年前から予約を受付け、6箇月前に本申込の手続きをお願いしているが、こどもや青少年の利用と一般の利用が重なった時は、本申込みまでの間で、一般利用者に対して会館の設置趣旨等を説明し、こどもや青少年の利用を優先できるように利用調整を実施。

この場合に、一般利用者も日を変えて利用していただけるよう声を掛けている。

○ 料金減免

類似施設の中でも低廉な料金を設定したうえで、高校生以下のみで使用する場合は小ホール創造活動室の利用料金を半額に減免。

○ 利用者支援

上演経験に乏しい子ども・青少年のため、豊富な知識と経験を有した技術職員やスタッフが音響・照明等できめ細やかな支援を実施。

イ 利用勧奨の取組

○ 子ども・青少年

高校への利用勧奨のほか、京都市内の大学に対し、サークルへのパンフレット配布依頼に加え、学内交響楽団への利用勧奨を実施。

○ 新たな利用者の確保

地域団体やシニア講座を開設している京都SKY大学に対し、利用勧奨を実施。



<効果>

人権学習の新規利用を1件確保したものの、希望の曜日が合わない、立地の問題、収容数が少ないといった理由で利用を断られるなど、大きな効果は認められなかった。

ウ 積極的な情報発信

○ ホームページでの情報発信

従来、電話のみであった空き状況について、28年度から、会館ホームページで概ね6箇月先まで公開。大学サークルによる大ホール利用実績あり。

○ フェイスブックでの情報発信

主催する催しやエンゼルこども文化教室の取組について、28年度から、フェイスブックで情報を発信。

エ 経費節減の取組

○ 運営体制の見直しによる人件費の抑制

3年間の間に、常務理事を非常勤化したうえ、不補充としている。舞台担当職員は退職後、嘱託（再任用）へ切替え。

※ 現体制：職員2名＋嘱託職員3名

○ 物件費の抑制

施設管理、保安警備等の委託業者の選定は入札対応にする（平成14年度から）とともに、26年度からはコスト比率の大きい高圧電力を新業者にするなど、コスト削減に努めている。

2 他施設との比較

資料2のとおり

京都子ども文化会館と近傍の類似施設との比較

○ホール

施設名	設置年	座席数	稼働率								アクセス
			21	22	23	24	25	26	27		
京都子ども文化会館	昭和57年	大ホール	608	63%	59%	58%	57%	56%	50%	56%	市バス「北野天満宮前」から徒歩5分。市バス「千本中立売」から徒歩10分。「京都駅」から「北野天満宮前」までバス45分。「京都駅」から「千本中立売」までバス30分。地下鉄「今出川駅」から「北野天満宮前」までバス13分。地下鉄「今出川駅」から「千本中立売」までバス8分
		小ホール	100	84%	84%	79%	75%	76%	73%	77%	
京都府立文化芸術会館	昭和45年	419	77%	79%	71%	69%	73%	76%	72%	京阪「神宮丸太町駅」から徒歩12分。市バス「府立医大病院前」からすぐ「京都駅」から「府立医大病院前」までバス25分	
京都府立府民ホール	昭和63年	560	79%	78%	83%	83%	83%	80%	82%	地下鉄「今出川駅」から徒歩5分	
京都テルサ	平成8年	856	88%	90%	89%	94%	91%	89%	91%	「京都駅」から徒歩15分 近鉄「東寺駅」、地下鉄「九条駅」から徒歩5分	
京都府長岡京記念文化会館	昭和63年	1,000	62%	64%	64%	68%	67%	65%	62%	JR「長岡京駅」からバス7分 阪急「長岡天神駅」から徒歩6分	
京都コンサートホール	平成7年	大ホール	1839	53%	58%	55%	69%	67%	70%	67%	地下鉄「北山駅」から徒歩5分
		小ホール	510	50%	53%	57%	60%	57%	57%	54%	
ロームシアター京都	平成28年 改築開館 (昭和35年)	メインホール	2,005	-	-	-	-	-	-	100%	地下鉄「東山駅」から徒歩10分 京阪「神宮丸太町駅」から徒歩13分
		サウスホール	716	-	-	-	-	-	-	100%	
		ノースホール	約200	-	-	-	-	-	-	96%	
京都市文化会館 ホール	東部	昭和62年	550	54%	60%	58%	60%	58%	68%	60%	地下鉄「栂辻駅」から徒歩7分
	呉竹	平成2年	600	58%	68%	78%	77%	75%	76%	79%	京阪・近鉄「丹波橋駅」から徒歩2分
	西	平成5年	448	44%	49%	58%	58%	61%	57%	56%	阪急「上桂駅」から徒歩15分 京都市バス「西京区役所前」から徒歩2分
	北	平成7年	405	67%	78%	80%	78%	69%	78%	82%	地下鉄「北大路駅」から徒歩2分
	右京	平成13年	452	63%	72%	78%	74%	77%	77%	73%	JR「花園駅」から徒歩3分

○活動室

施設名	設置年	取容数 (人)	稼働率								アクセス
			21	22	23	24	25	26	27		
子ども文化会館 創造活動室	昭和57年	30	81%	76%	76%	74%	73%	75%	71%	ホールに同じ	
京都市文化会館 創造活動室	東部	昭和62年	160	90%	93%	96%	93%	93%	85%	81%	ホールに同じ
	呉竹	平成2年	140	98%	97%	95%	94%	94%	93%	97%	
	西	平成5年	160	92%	94%	90%	95%	95%	93%	93%	
	北	平成7年	140	97%	97%	96%	99%	98%	97%	97%	
	右京	平成13年	120	95%	94%	97%	98%	96%	95%	93%	

資料2

駐車場	利用料金(円)				申込受付	用途指定	
	区分	午前	午後	夜間			
無	平日	16,000	24,000	32,000	受付は12ヶ月前。使用確定は6ヶ月前。複数の申込みがあった場合は調整又は抽選。練習のみの場合は、3ヶ月前から受付	営利を目的とする場合や、入場料を徴収する場合は利用料金に加算	
	土・日・祝	21,000	31,000	42,000			
	平日	4,500	5,000	5,000			
	土・日・祝	5,000	5,500	5,500			
30台	平日	17,400	27,900	38,400	随時受付。使用確定は12ヶ月前。複数の申込みがあった場合は抽選	音楽・演劇・芸能・舞踊等に限定	
	土・日・祝	24,400	34,900	45,400			
無	平日	29,000	44,000	58,000	受付は12ヶ月前。アマチュアは10ヶ月前	無	
	土・日・祝	38,000	57,000	75,000			
180台	平日	42,984	62,424	75,384	利用月の12ヶ月前の1カ月分を月初めに抽選。抽選決定後から先着順にて受付	営利を目的とする場合や、入場料を徴収する場合は利用料金に加算	
	土・日・祝	53,784	79,704	96,984			
約100台 (他施設と 共用)	平日	24,840	37,800	45,360	受付は12ヶ月前 12ヶ月前に毎日抽選	営利を目的とする場合や、入場料を徴収する場合は利用料金に加算	
	土・日・祝	29,808	45,360	54,432			
約100台	平日	176,510	247,470	353,010	受付は利用月の18ヶ月前。18ヶ月前の1カ月分は抽選。抽選決定後から先着順にて受付	音楽演奏会に限定 入場料を徴収する場合は利用料金に 加算	
	土・日・祝	211,680	296,230	422,750			
	平日	41,350	57,390	82,080			
	土・日・祝	51,230	71,590	101,830			
無	平日	101,800	185,700	234,500	*舞台芸術公演の受付 18ヶ月前の1日から7日まで。1日から7日までは利用日調整(決定しなかった場合は抽選)。8日から月末までの申込み分については先着順(上記利用調整後に決定)。翌月以降は先着順で受付 *その他の催物の受付 17ヶ月前の1日から7日まで。7日を過ぎた場合は翌月1日以降に先着順で受付	入場料を徴収する場合は利用料金に 加算	
	土・日・祝	133,300	241,900	306,100			
	平日	49,300	90,700	112,300			
	土・日・祝	64,800	116,600	147,500			
無	平日	18,300	22,800	27,400	*舞台芸術公演の受付 12ヶ月前の1日から7日まで。1日から7日までは利用日調整(決定しなかった場合は抽選)。8日から月末までの申込み分については先着順(上記利用調整後に決定)。翌月以降は先着順で受付 *その他の催物の受付 11ヶ月前の1日から7日まで。7日を過ぎた場合は翌月1日以降に先着順で受付	無	
	土・日・祝	23,600	29,800	36,000			
38台	無	平日	24,070	30,860	35,790	受付は6ヶ月前。6ヶ月前の1カ月分は、毎月月初めにまとめて抽選。抽選終了日の翌日から先着順にて受付	入場料を徴収する場合は利用料金に 加算
53台							
67台	無	土・日・祝	28,390	37,030	42,590		

駐車場	利用料金(円)				申込受付	用途指定
	区分	午前	午後	夜間		
ホール に同じ	平日・休日 の区分なし	2,300	3,000	3,000	受付は3ヶ月前	営利を目的とする場合や、入場料を 徴収する場合は利用料金に加算
ホール に同じ	平日	5,870	7,650	8,700	受付は6ヶ月前。6ヶ月前の1カ月分は、毎月月初めにまとめて抽選。抽選終了日の翌日から先着順にて受付	入場料を徴収する場合は利用料金に 加算
	土・日・祝	7,040	9,010	10,430		

京都こども文化会館の利用状況等に関する調査について

1 調査概要**(1) 目的**

京都こども文化会館の利用団体等に対し、利用状況に係るアンケート調査を実施するとともに、収客数が多い団体等を中心に、個別ヒアリングを実施。

(※併せて、コンサート等企画運営会社からの聞き取りを実施)

(2) 調査期間

平成29年3月3日(金)～平成29年3月13日(月)

(3) アンケートの回答状況

79団体・個人/115団体・個人(回答率68.7%)

2 調査結果**(1) 利用状況**

79団体中52団体が「もっぱら京都こども文化会館を利用」を選択。

(2) 他に利用している施設

近隣の「北文化会館」「文化芸術会館」のほか、交通の便の良い「呉竹文化センター」や「ロームシアター京都」等のホールを利用。

(3) 利用する主な理由

「これまでも利用しており慣れ親しんでいるから」が最も多く、続いて「1年前から仮予約ができるから」、「近かったから」「料金が安かったから」が続く。

(4) 今後の利用希望

78団体中58団体が「再度利用したい」を選択。

(5) 休館時等の対応

「他会館を利用する」が最も多い。「他の施設の利用は難しい」を選択した団体についても、現時点では具体的に検討できていない事例がほとんどであり、一部近隣の利用団体からは遠方になると事業内容の見直しが必要との意見があった。

(6) 利用していない主な理由

回答数が少ないため、省略。

(7) 今後のあり方について(自由記載)

今後の方向性について、この施設が青少年にとって文化に触れる機会を提供する場となっていることを踏まえてしっかり検討願うといった施設の継続利用希望の意見のほか、現施設の使い勝手に関する改善要望等が記載されている。

3 結果を踏まえた分析

(1) 施設利用団体の状況

- アンケート調査では約66%の団体が「もっぱら京都こども文化会館を利用している」と回答し、74%が「再度利用したい」としている。その理由として「これまでも利用しており慣れ親しんでいるから」、「1年前から仮申し込みができるから」、「料金が安い」といったことのほか、48%の団体が「近かったから」を理由にしている。

(2) 交通アクセスの状況

- 京都こども文化会館は利用できる公共交通アクセスが市バスのみで、駐車場もなく、交通の便が他施設に比べて不利な条件にあることから、利用率が駅等に近接する他の類似施設のものと比較して低位にとどまっていることを踏まえると、現状においては、今後新たな利用団体の広がりは見込みにくい。
- 交通アクセスに関する主な意見は次のとおり。
 - ・ 施設の建て替えやリニューアルを行ったとしても、現在の立地条件では利用者の増加は見込めず、施設に将来はない（広域的に活動している団体）
 - ・ 交通の便が悪い（京都市以外に拠点を置く団体）
 - ・ 交通アクセスに不便はない、施設が利用できなくなるのは困る（施設近隣の利用団体）
 - ・ コンサート等の会場選定には、施設の利用料よりも交通アクセス等の立地条件を重視する傾向がある（コンサート等企画運営会社）
- 京都こども文化会館への交通アクセスが他施設と比べて不利な条件にあること、施設利用者の減少傾向が止まらず、ピーク時（平成6年度）と比較して52%の減となっていること等を考慮すると、この間に比較的施設近傍の団体を中心に利用団体の固定化が進んだことが窺える。

(3) 施設の規模等について

- 施設の規模等に係る評価については意見が分かれるが、これはイベントの内容や集客規模に応じて、利用団体がその都度会場を選択していることによるものと考えられる。京都こども文化会館の大ホールの特徴として、他施設に比べ、舞台の奥行きに余裕があることから、多人数が舞台上にあがるバレエや合唱で使用する団体で評価が高い。
- 施設の規模等に係る主な意見は次のとおり。
 - ・ 舞台や舞台袖の広さ、客席からの見やすさなどは他の施設と比較して良い方で、使いやすい（バレエ、合唱関係団体）
 - ・ 大ホールの座席数約600は多すぎる（単独利用の発表会等実施団体）
 - ・ 大ホールの座席数約600は少なすぎる（複数団体共同のコンクール等実施団体）
 - ・ 収益を見込むイベントでは、1,000人規模の会場でないと採算がとれない（有料公演実施団体）
 - ・ 最近では300人程度の規模のイベントが多い（コンサート等企画運営会社）

(4) その他

- 休館など、施設が利用できなくなった場合の対応として、現時点で約60%の団体が他の施設を利用すると回答。
- 他方、他の施設を利用するのは困難だと回答している団体は、主に施設近隣の団体であり、幼稚園など遠距離の移動が困難なケースなどが挙げられているが、現時点では具体的に検討できていない事例がほとんどである。
- また、近隣の学校、バレエや合唱等で利用する団体からは、耐震工事を行い、安心して利用できることを希望する旨の意見があった。

京都こども文化会館の利用状況等に関する調査まとめ

問1 京都こども文化会館の利用状況を教えてください。

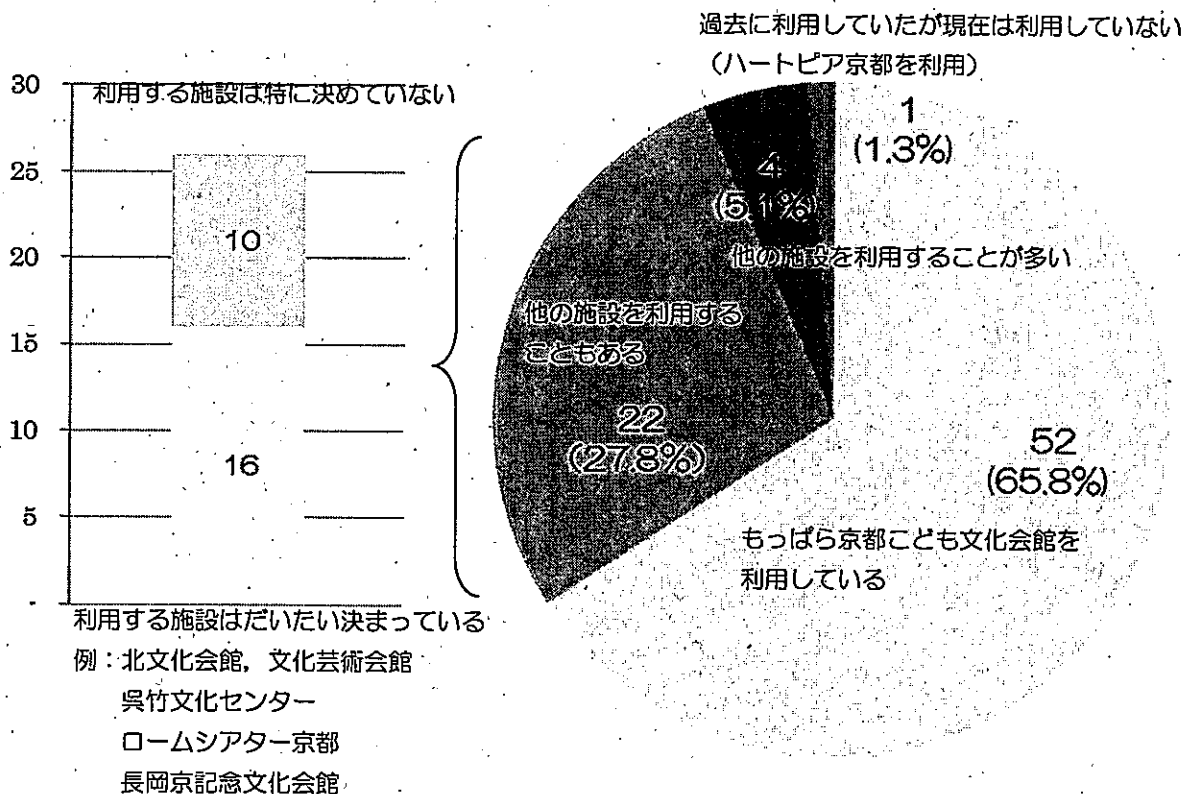
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| ① もっぱら京都こども文化会館を利用している | } → 問2に進んでください |
| ② 他の施設を利用することもある | |
| ③ 他の施設を利用することが多い | |
| ④ 過去に利用していたが、現在は利用していない | } 現在利用されている移設名を教えてください(複数可) |

問2 他に利用されている施設について教えてください。

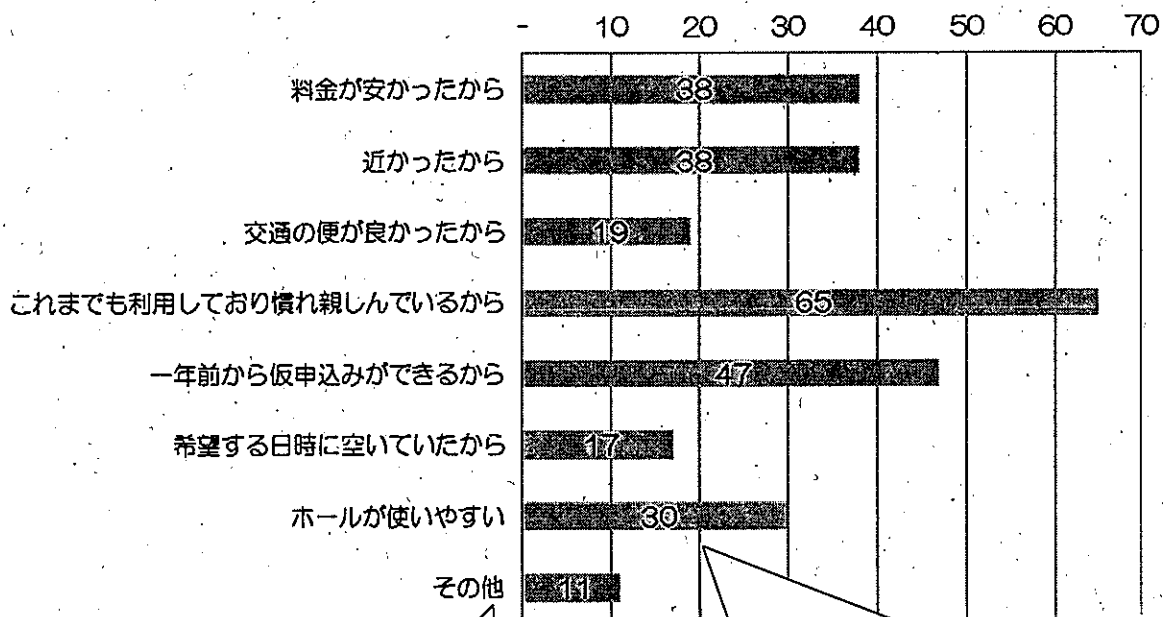
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 利用する施設はだいたい決まっている
(施設名: _____) |
| 2 利用する施設は特に決めていない |



問3 京都こども文化会館を利用いただく主な理由を教えてください。
 (あてはまる番号に○をつけてください。) ※複数回答可

- 1 料金が安かったから
- 2 近かったから
- 3 交通の便が良かったから
- 4 これまでも利用しており、慣れ親しんでいるから
- 5 一年前から仮申込みができるから
- 6 希望する日時に空いていたから
- 7 ホールが使いやすいから
 (具体的に：)
- 8 その他 ()



主な意見

- ・スタッフが丁寧・親切
- ・駐輪スペースがある

主な意見

- ・ホールの規模(600人)が適切である
- ・ステージに奥行きがあり、長方形で使いやすい
- ・楽器の搬入がしやすい
- ・会場内がバリアフリーである
- ・ロビーが広いので人が滞留しづらい。

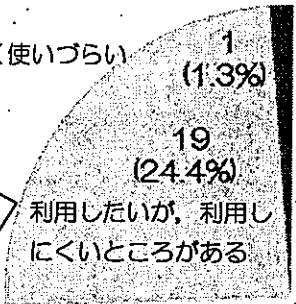
問4 今後も利用したいと思いますか。2, 3の場合は, その理由も教えてください。
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

- 1 再度利用したい
2 利用したいが, 利用しにくいところがある
(具体的に:)
3 利用したいと思わない
(理由:)

利用したいと思わない

・授乳室やおむつ替え室がなく使いづらい

主な意見
・トイレが和式で使いづらい。
・楽屋が狭い, 畳なので使いづらい。
・交通の便が悪い。
・トイレだけ借りに来る人が入ってくるため, 有料講演の際に区別できない



58
(74.4%)

再度利用したい

問5 耐震性能不足や老朽化等により休館するなど, 施設が利用できなくなる可能性も考えられますが, その場合の対応について教えてください。

(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

- 1 他の施設を利用する (施設名:)
2 他の施設を利用するのは難しい (理由:)
3 その他 ()

主な意見
・遠方になると内容を見直す必要がある
・施設を存続してほしい

主な意見
・他のホールが遠い
・他の施設を知らない
・考えたことがない



46
(59.7%)
他の施設を利用する

主な意見
・右京文化会館, 北文化会館, アルティ, 文化芸術会館, 呉竹文化センター, 長岡京記念文化会館, 未定, これから考える

問6 利用していない主な理由について、教えてください。

(あてはまる番号に○をつけてください。) ※複数回答可

- | | | |
|----|---------------|---|
| 1 | 他ホールよりも料金が安い | |
| 2 | 場所が遠い | |
| 3 | 交通の便が悪い | |
| 4 | 職員の対応やサービスが悪い | |
| 5 | 駐車場がない | |
| 6 | 予約手続きがわかりにくい | |
| 7 | 希望する日時に空いていない | |
| 8 | ホールが使いにくい | |
| | (具体的に : |) |
| 9 | 施設の老朽化が気になる | |
| 10 | その他 (|) |

<回答数が少ないため省略>

参考回答数 1 : 交通の便が悪い, 駐車場がない

問7 今後の施設のあり方について、御意見があれば記入してください。

<主な意見>

今後のあり方に関するもの

- ・耐震工事を行い、安心できる形で利用をできることを希望する。
- ・交通の便が悪く、きれいにリニューアルしてもあの立地であれば将来はない。
- ・休館や方向性が固まれば、速やかに教えていただきたい。
- ・休館等のタイミングについて、関係機関としっかり調整してほしい。

施設の使い勝手の改善に関するもの

- ・トイレが和式であり、使いづらい。
- ・座席間隔が広くなればありがたい。
- ・楽屋と客席を結ぶ道があればありがたい。
- ・楽器を運べるエレベーターがない。
- ・駐車場の台数を増やしてほしい
- ・館全体が暗いので、もっと明るくしてほしい。

その他

- ・施設のアピールが足りない。

施設の改修等に要する経費

1 概要

- ① 建設後34年が経過し、施設の老朽化が著しい
- I 機能上問題なし : 昇降機
 ※ 「戸開走行保護装置の設置」、「昇降路内及びピット内の耐震対策」は既存不適合
- II 劣化が始まっている : 屋根、外壁、内部
- III 劣化が進んでいる : 空調
- IV 機能喪失している : 電気、給排水衛生、
- ② 耐震補強が必要
- Is 値 最小0.301 最大2.63
- 主なフロア別診断結果: ピロティ、ロビー、小ホール 最小 Is 値 0.301
 大ホール(客席及び舞台) 最小 Is 値 0.55
 楽屋・機械室 最小 Is 値 0.47

2 改善に要する費用

(1) 建替えに要する費用

約21億円

※他ホール建設費を参考とした概算費用

(参考: 京都こども文化会館の昭和57年の建設費1,320,430千円)

(2) 修繕に要する費用

約10億円

ア 大規模改修費用: 約7.8億円

① 改修経費

(単位: 千円)

	要改修設備	所要額	要改修設備	所要額
早急に改修が必要なもの	大ホール空気調和機更新	13,400	屋上キュービクル	24,700
	屋上防水更新	14,500	非常用蓄電池改修	9,400
	ピアノオーバーホール(2台)	3,700	時計オーバーホール	7,400
	小計		73,100	
近々改修が必要なもの	大ホール冷温水器更新	51,100	大ホール照明設備	21,200
	大ホール吊りもの・反響板	10,800	大ホール音響調整卓	26,700
	大ホール音響設備(前回改修H12年度)	80,000	小ホール照明設備改修	37,800
	小計		227,600	

② その他の改修等費用

※類似例として府立文化芸術会館改修に要した経費 (単位: 千円)

工事項目	所要額	工事項目	所要額	工事項目	所要額
建築主体工事	231,092	電気設備工事	82,540	衛生設備工事	71,280
空調設備工事	35,400	昇降機整備工事	15,120	建物調査診断	41,524
小計					476,956

イ 耐震化工事: 約2.2億円(床面積1m²当たり50,000円とした場合)

※東京都耐震ポータルサイトの耐震改修費用の目安より算出

京都こども文化会館利用ニーズ調査

<追加調査>

- 第1回あり方懇談会での意見を受けて実施した利用者アンケート調査（115団体、回答79団体）で未回答であった36団体と他の文化施設へ移行した3団体に追加調査を実施（計39団体）
- 39団体のうち9団体が過去に京都こども文化会館を利用していたが、現在は他の施設を利用しており、京都こども文化会館は利用していないと回答。

<9団体の主な意見>

- 利用しなくなった理由を尋ねたところ、交通の便や駐車場、ホールの利用規模等の施設面からの理由等があげられた。
- 今後どのような条件がそろえば再び戻る可能性があるのかとの問いに対しては、施設の規模や現利用施設で定着している等の理由により、現在の場所・規模等を前提として施設改修したとしても戻ってきたいとの意見はなし。

<回答内容>

- なぜ利用しなくなったのか。
 - ・ 交通の便が悪い、駐車場がない、場所が遠い。
 - ・ 客席の人数規模が合わない。
 - ・ 舞台が狭い。
 - ・ 行事を廃止した。
 - ・ 建物が古い、トイレが使いにくい。
 - ・ 希望する日時に空いていない。
- 今後どのような条件がそろえば、再び戻る可能性があるのか。
 - ・ 現利用施設で定着しているため、変更しない。
 - ・ 自社ホールがあるため、今後利用することはない。
 - ・ 施設の規模が合わないため、利用しない。（ただし、駐車場が整備され、座席数ももう少し増えて施設がキレイになるのであれば、可能性はあるが）
- 主にどこの施設を利用しているか。

ロームシアター、コンサートホール、呉竹文化センター、北文化会館、右京ふれあい文化センター、京都アスニー、アルティ、府立文化芸術会館、ハートピア京都、長岡京記念文化会館、八幡市文化センター
- 施設を選ぶ際の基準について

施設の規模、交通の便・立地、駐車場の有無、建物の仕様・設備

主な利用団体の所在地について

現在利用している 100 団体の所在地

(アンケート等実施団体 118 団体のうち未回答 9 団体、利用していない団体 9 団体を除く)

ア 京都市内

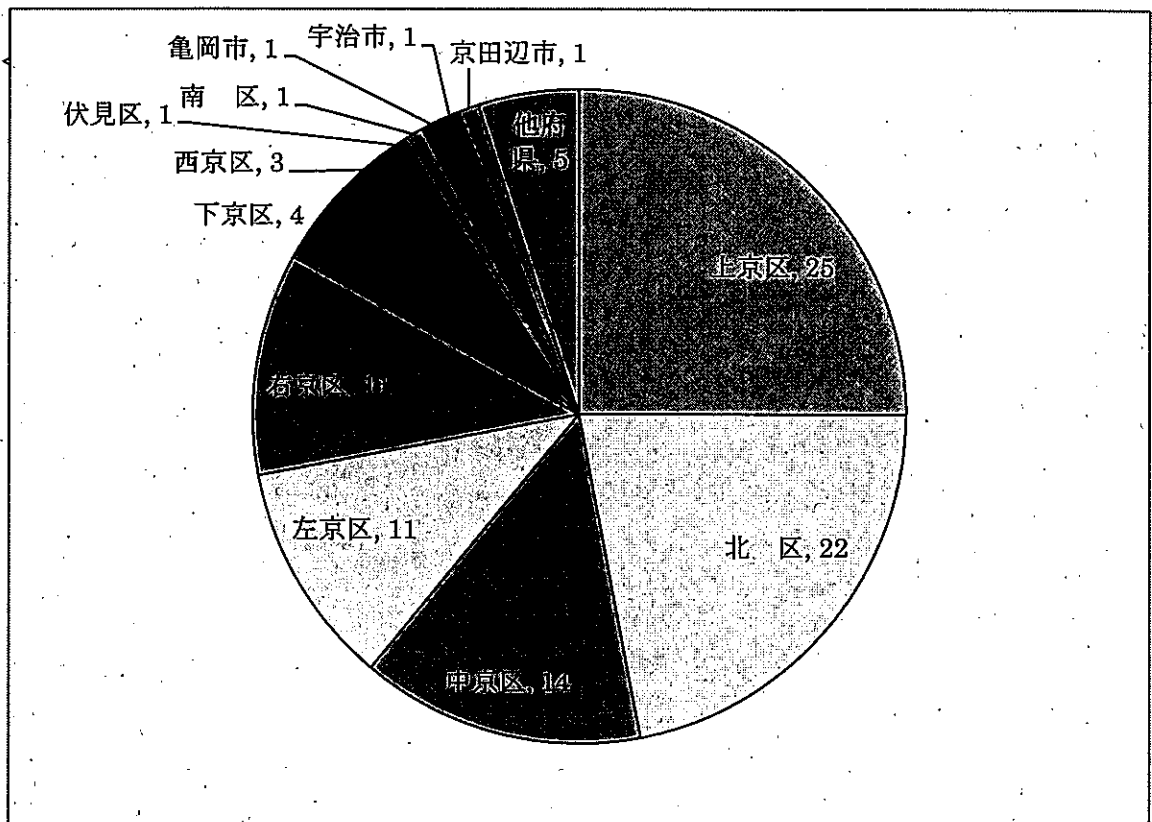
- 北 区 22 団体
- 上京区 25 団体
- 左京区 11 団体
- 中京区 14 団体
- 下京区 4 団体
- 南 区 1 団体
- 右京区 11 団体
- 西京区 3 団体
- 伏見区 1 団体

イ 京都府下の市町村（京都市除く）

- 亀岡市 1 団体
- 宇治市 1 団体
- 京田辺市 1 団体

ウ 他府県

5 団体（滋賀県 3 団体、大阪府 2 団体）



(京都子ども文化会館所在地：京都市上京区一条通七本松西入)

京都こども文化会館以外の子ども・若者に係る京都市内の施設で
実施する文化事業の一例について

1 児童館

【京都市内の児童館数の推移】

S 5 7 (開設時)	3 9 施設
H 3 0 (現在)	1 3 1 施設 (+ 9 2)

【児童館における文化系クラブ活動の実施状況】

実施箇所数	8 0 / 1 3 1 館
実施内容例	将棋クラブ, 習字クラブ, 折り紙クラブ, 切り絵クラブ, ちぎり絵クラブ, 和太鼓クラブ, 工作クラブ, ダンスクラ ブ, 手芸クラブ, 茶道クラブ, 生花クラブ, 音楽クラブ, 工作・実験クラブ, リコーダークラブ, 合奏クラブなど

2 青少年活動センター

【京都市内の青少年活動センター数の推移】

S 5 7 (開設時)	7 施設
H 3 0 (現在)	7 施設

施設数の増加はないが、利用対象を拡大
<平成10年>
「勤労青少年」 → 「青少年・青少年育成団体」
<平成13年>
「15歳以上31歳未満」 → 「13歳(中学生)以上31歳未満」

【青少年活動センターにおける文化事業の実施状況 (H 2 9)】

- ・ なかせいオープンデイ (音楽発表) [中京]
 - ・ 若者文化市 (ライブ演奏・パフォーマンス) [東山]
 - ・ M・Mフェスタ (ライブ演奏・パフォーマンス) [南]
 - ・ つながりc a f e (ライブ演奏等) [伏見]
- ※ 地域交流や、青少年の活動の発表の場として実施しているもの